

6月定例記者会見の概要

1 日 時 令和8年6月4日(木) 13時30分～14時10分

2 場 所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)
- ② 朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)
- ③ 読売新聞社 南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)
- ④ 福島民友新聞社 相双支社(南相馬記者クラブ会員)
- ⑤ 福島民報社 南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)

計 5 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

・副市長・小高区役所長・鹿島区役所長

・復興企画部長・復興企画部政策担当理事

・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長

・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事

・農林水産部長・建設部長・総合病院事務部長

・総合病院経営企画担当部長・教育委員会事務局長

計 18 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、本市職員の懲戒処分についてです。

去る5月18日、被保護者へ支給するために市役所内の金庫に保管していた生活保護費が、本市職員によって窃取されていたことが判明いたしました。公金を取り扱う立場にある職員がこのような事態を引き起こし、市民の皆様の信頼を著しく損ねましたことを、市政を預かる者として深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

当該職員の行為は、職責を著しく汚し、行政に対する市民の皆様の信頼を失墜させるものです。事実関係を精査したのち、規定に基づき、5月28日付けで懲戒免職処分といたしました。なお、窃取された金額につきましては、全額弁済されております。本件を極めて重く受け止め、二度とこのような事態を起こさぬよう、全職員に対し服務規律の遵守と綱紀粛正を改めて指示いたしました。同時に、公金の管理体制および庁舎の入退室管理についての再点検を実施しております。信頼回復に向けて全力で取り組んでまいります。

それでは市政報告に入ってまいります。前回5月11日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。相馬野馬追に関する報告は、会見の最後に報告させていただきます。

はじめに、クマの目撃情報についてです。

5月5日の目撃以降も、クマのような動物の目撃や痕跡の発見情報が続いています。市では安全確保を最優先に、防災メールや市公式SNS、防災無線、広報車巡回による注意喚起のほか、各行政区長や保育園・小中学校等への情報共有を継続しています。さらに、目撃周辺での足跡や糞などの現地調査をはじめ、監視カメラによる常時監視や熱探知ドローンを活用した捜索なども実施しています。

捕獲に向けては、県の協力のもと箱罠を設置したほか、有害鳥獣捕獲隊と連携し、緊急銃猟を見据えた出動態勢を確保しております。また、万が一、市街地への侵入など人命に危険が及ぶ緊急事態となった場合は、警察や捕獲隊と連携し、排除・駆除を迅速に実施します。今後も関係機関と連携し、情報発信と警戒を強めてまいります。

なお、クマ情報対策については、市の防災メールと公式LINE、全戸配布の防災ラジオ等でその都度お知らせしています。未加入の方は、この機会にぜひ加入手続きを行ってください。また今後、クマ情報に関する新聞折り込みを行います。

次に、川房地区複合型園芸施設整備事業についてです。

南相馬市では、東日本大震災から15年が経過し、農業再開が着実に進んでいます。この復興の歩みを加速させるため、川房地区に新たな複合型園芸施設を整備します。高品質な野菜苗を生産することで農家の負担を軽減するとともに、農産物の付加価値向上をサポートし、農家の皆様の収益安定化などを目指すものです。

施設の建設に先立ち、5月13日に安全祈願祭を執り行いました。この施設が地域農業の新たな拠点となるよう、令和9年度中の竣工を目指し、整備を進めてまいります。

次に、「まちづくりアワード」の受賞についてです。

5月29日、国土交通省から「第5回まちづくりアワード（功劳部門）」の受賞者が公表され、本市と連携して住環境づくりを推進している一般社団法人南相馬ミライエが選出されました。今回の受賞は、相談窓口を通じた課題解決をはじめ、移住・起業支援や進出企業の住環境調整など、官民連携による取り組みが全国の先進的事例として高く評価されたものと理解しています。

同法人の地域課題への多大な貢献に深く敬意を表します。今後も連携を深め、誰もが安心して暮らせる魅力的な南相馬市を築いてまいります。

次に、4市町村合同要望活動についてです。

6月3日に、復興大臣と内閣府原子力災害現地対策本部長に対して、旧緊急時避難準備区域を抱える田村市、川内村、広野町と本市の4市町村が合同で要望活動を行いました。

要望内容としては、第3期復興・創生期間における支援など全6項目とし、被災地の復興・再生が停滞することがないように、帰還・移住の促進、生活再建等に対する支援継続を要望するとともに、復興のステージが進むにつれて生じる新たな課題に対しても国がしっかりと責任をもって取り組むよう申し入れてまいりました。

続いて今後の主な話題について申し上げます。

はじめに、育児休業等応援加算制度についてです。

当市では、本年6月の賞与から、職員が育児休業や介護・病気休暇などで1ヶ月以上不在となる際、その業務をサポートした職員の勤勉手当を加算する措置を導入します。こうした施策は、東北地方の自治体では初の取り組みとなります。

本施策を通じて、「周囲の応援に報いる仕組み」と「育児休業等を取得しやすい環境」を具現化してまいります。今後は、制度を運用しながら改善点を検討するとともに、市役所での実情を踏まえ、市内の企業等における職場環境の充実に向けた施策もあわせて検討してまいります。

次に、鎮魂復興市民植樹祭についてです。

6月7日に、鹿島区烏崎地内で、第14回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭を開催いたします。本市では、故・宮脇教授のご指導の下、平成7年から17年間にわたり、植樹活動を続け、震災後は、「南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」として、「いのちを守る緑の防災林」の実現に向け取り組んでおります。今年も、約1,000人の皆様に、1万2千本の苗木を植樹していただく予定です。

当日は高校生による物品販売やキッチンカーの出店など、ご家族で楽しめる企画も予定しております。市民の皆様の多くの方々のご参加をお待ちしています。

次に、市議会定例会についてです。

6月8日から、第2回市議会定例会を開催いたします。今回の定例会においては、補正予算など議案11件、報告10件の提出を予定しています。

市政報告は以上となります。

【相馬野馬追の開催報告】

改めて、相馬野馬追執行委員長として、相馬野馬追の開催についてご報告いたします。

令和8年相馬野馬追の開催実績を申し上げます。出場騎馬数は377騎で、そのうち女性騎馬武者は、出場条件を緩和した20歳以上の17騎を含む、総勢47騎が出陣しました。また、観光客の入込数は、24日の本祭りは、沿道が4万2千人、雲雀ヶ原祭場地が過去最大の4万人で、合わせて8万2千人、3日間を通すと14万3千人となっております。

加えて、今年も市内の小学生から高校生までの児童・生徒の皆さんに伝統文化の継承をお手伝いいただきました。

例えば相馬野馬迫に係る連携協定を締結している相馬農業高校の馬術部の皆様には、わたしが騎乗する馬の綱を引く ^{ちゅうげん} 中間 を務めていただき、原町高校放送部の皆様には、今年も沿道や祭場地でアナウンスにご協力いただきました。また、鹿島中学校と小高中学校の生徒と卒業生の皆様には、各所での相馬流れ山踊りの披露に加わっていただきました。火の祭りには小高小のご協力もいただきました。さらに、3日目の野馬懸には、地元の幼保園や認定こども園の園児、上真野小の児童が見学に訪れました。迫力ある伝統文化を間近で体感し、未来を担う子供たちにとって大きな刺激になったことと思います。

安全対策については、令和7年度に事故があった鹿島区横手の踏切付近において、万全を期すため、JR職員や警察署員などのご協力をいただき、計15人体制で警護にあたりました。

一方で、24日の本祭りにおいて、甲冑競馬中に放れ馬が場外に逃げ出し、観客と関係スタッフが負傷する事案が発生しました。負傷された皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、今後も誠心誠意フォローを行ってまいります。また、ご来場の皆様及び市民の皆様に多大なるご心配とご迷惑をお掛けしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。今後このようなことが二度と起きないように、具体的な再発防止策として、羊腸の坂の入口付近におけるハード面の改善や、馬具の確認の徹底などについて、騎馬会等と調整を進めてまいります。

また、今年は前売りの観覧チケットがすべて所定の枚数に達し、当日券も当初目安が完売となったため、ご来場の皆様の安全確保のため、実質初めて入場制限を実施いたしました。来年度も安全確保のための入場制限が行われる可能性があることを今後も事前にアナウンスするなど、観客の皆様が安心して観覧できる環境整備に努めます。

今後も一千有余年続く伝統を次世代へ引き継ぐため、安全管理の徹底に全力を尽くしてまいります。

【質疑応答】

質問1：

令和8年の観覧者数は、過去と比較してどの程度の位置づけでしょうか。また、3日間すべてにおいて前年より入場者が増加している理由をどのように分析されていますか。

併せて、指定席や前売券が完売したとのことですが、来年以降、席数を増やすなどの検討はされていますか。

回答1：市長

手元に平成29年度以降の開催実績があります。今年の14万3,000人という数字は、平成29年度の16万4,200人、令和元年度の16万3,200人に次ぐ規模となります。祭場地内の観覧席の状況などが年によって異なるため単純比較は難しい面もありますが、最近是指定席などを設けている関係で、会場内は余裕がない状態になっていると感じています。

増加の理由については、これから詳細な分析を行いますが、私の感触として大きく二つの要因があると考えています。一つは「ふくしまデスティネーションキャン

ペーン」の影響です。広域的に東北地方への観光誘客の流れができ、遠方からお越しいただいた方が多かったと感じています。もう一つは、日程変更により以前よりも涼しい時期の開催となったことです。「涼しくなったと聞いたので、もう一度見に来ようと思った」という声をよく耳にしました。

また、日程変更や女性騎馬の出場など、マスメディアに取り上げられる話題が多く、認知度が高まったことも要因ではないでしょうか。これらはあくまで私の現時点での感触ですので、今後は外国人観光客の数なども含め、より詳細に分析を行い、次回以降の運営に役立てたいと考えています。

来年度以降の増席についてですが、来場者に座って楽しんでいただく環境作りや、伝統継承に必要な費用確保の観点から増席は検討事項です。ただし、席を設けるとなると、安全確保のための工事が必要であることや、地元住民が気軽に観覧できる場所が減ってはならないという課題もあります。現場の状況を見ながら騎馬会とともに慎重に検討を進めます。

以上